



谷戸は小さな宇宙そして桃源郷

かわセミだより

「奈良川源流域を守る会」

会長／渡辺 坦 <http://nara.yato.jp/> e-mail:nara@yato.jp

2011年12月29日発行

第13号

東日本大震災および台風で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

このたびの東日本大震災や台風12号・14号による大災害は、自然界の計り知れない脅威をまざまざと見せつけました。また、福島原発の放射能汚染による核の恐怖は、日本だけでなく世界をも震撼させました。

現在は、これらの惨禍を乗り越え、復旧、復興に向けた取組みが始まっていますが、被災地の方々を支援するとともに、近い将来予想されている、関東における大地震に向けて備えることも大切だと思われます。

わたしたちは、子どもたちの生きる力を育んでくれる豊かな里山の自然環境を守るために活動してきました。地域の動植物の「生物多様性」を保全し、それらを持続可能なものにすることが、災害に立ち向かう大きな力にもなると確信しています。地域の身近な自然を観察し、守ってきたこの1年間の歩みを集めてみました。

== 特集・生物多様性と奈良川源流域の自然 ==

◎「生物多様性」保全の取組み

◇国際生物多様性年

昨年（2010年）は「生物多様性」保全にとって画期的な年でした。まず、国連がこの年を「国際生物多様性年」と決めました。続いて10月には、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されました。この条約は、生物多様性の保全は、地球温暖化防止とともに環境問題解決の重要な取組みであるとし、1992年の「地球サミット」で世界の191カ国が締結したものです。その締約国の会議が2年に一度開かれ、昨年は日本が議長国となり、COP10は、世界各国から1万人が参加した空前の国際会議となりました。

言うまでもなく、生物多様性保全の主体は各地域です。世界の各地域の生物多様性が保全されなければ、地球全体の環境問題は解決されません。そこで、COP10では、自然環境

と共生する里山の特性が、生物多様性の保全とその生態系が提供する多様な価値の持続可能な利用に有効であると評価され、「SATOYAMA」イニシアティブとして採択されました。生物多様性保全の切り札として里山の在り方が世界に発信されるとともに、国内では「生物多様性保全活動促進法」が制定されました。施行は2011年の秋からで、同法に基づく「地域連携保全活動の促進に関する基本方針」により地域の生物多様性保全施策が促進されていきます。

◇生物多様性に関わる活動

以上の2010年「国際生物多様性年」に対し、当会がどのような活動を行ってきたか振り返ってみたいと思います。



はらっぱ広場で自然観察をする
近隣小学校の生徒たち

「春の野鳥観察会」……

2010年5月22日（国際生物多様性の日）

（日本自然保護協会「2010年国際生物多様性年CBO/COP10記念 全国一斉自然かんさつ会」参加企画）実施。参加者34名。

「市民調査全国大会～2010～」……2010年7月4日
(主催=日本自然保護協会/連携協力：生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会：国立オリンピック記念青少年総合センターにて) 参加発表。



奈良川源流域の動植物調査の結果を説明

参加者約200名と大盛況で、市民による継続的な調査についての関心の高さがうかがえました。当会では動植物調査の結果をパネルにまとめて発表し、全国から集まった団体との交流も深めることができました。来訪者から熱心な質問があり、奈良川源流域の鳥をプリントしたTシャツを着て対応しました。

「里山まつり」……2010年10月31日

「身近な生き物と自然環境を守りましょう - COP10・里山 (SATOYAMA) イニシアティブ」と題し、「COP10にちなんだ宣言文」を公表。

第10回「野生動植物保全フォーラム：豊かな自然の保全・再生 身近な生き物とのつながりを知ろう」……2010年11月28日

(主催：NPO法人神奈川県自然保護協会/後援：神奈川県・厚木市・(財) 神奈川トラストみどり財団：厚木市文化会館にて) 参加発表。



スライド発表の質疑応答

環境省自然環境局からの生物多様性についての概要発表の後、県内の4団体が発表を行いました。当会では住宅地に残された緑地の保全をテーマにパワーポイントおよびパネルを使用して発表しました。口頭発表は緊張感もありましたが、熱く有意義なものとなりました。こちらは神奈川県内ということで、参加者も土地勘のある郷土愛にあふれた方が多かったようでした。

◇ヨコハマbプラン

以上に加え、横浜市は「生物多様性基本法」の定めに従った生物多様性地域戦略として2011年2月17日に

「ヨコハマbプラン (生物多様性横浜行動計画)」素案を公表し、同年3月18日までパブリックコメント (市民の意見) を募集しましたので、意見を提出しました。青葉区民からの意見は当会を含め3件でした。パブリックコメントの概要と回答が同年4月15日に横浜市環境創造局より公表され、同日「ヨコハマbプラン」が確定しました。当会の意見のすべてが公表されているわけではありませんが、当局が公表した概要と回答のうち、当会提出に関する主なものは下記の表のとおりです。

◇今後の課題

奈良川源流域は生物多様性を保持する大切な環境として引き続き守ることを重要課題とし、そのためには、「モニタリングサイト1000」の観察活動を継続し、そこで得た情報等を地域や学校に還元して身近な生物多様性の素晴らしさを周知するとともに、地域諸団体に積極的に働きかけ、地域全体でこの生態系を守っていききたいと思います。

★ヨコハマbプラン・パブリックコメント★

計画に反映したもの

意見概要	回答
恩田地区は奈良川の源流ではないので、説明は、「奈良川の流域の一つに谷戸田が両側の丘に挟まれ形成されています」とすべきです。	回答 修正しました。

今後の参考とするもの

意見概要	回答
データバンクについては、データから生物多様性が損ねられる状態が確認できる、あるいは予測できる時には、横浜市と調査団体、地域住民が協働して問題を解決することを提案します。(2件)	回答 まずは体系的な生き物調査の実施によるデータの整理と蓄積が重要と考えていますが、その後のデータの活用により生物多様性の施策・取組に反映できるよう検討していきます。
河川源流域の水路については、3面コンクリートから動植物の棲息や生育に適した水路に変えて、以前の生物多様性を取り戻すことを長期施策として進める必要があります。	ご意見については、「重点アピール3・谷戸環境の保全と活用」など今後の取組の中で参考とさせていただきます。
青葉区西北端にある奈良川の源流域を奈良川源流地区あるいは奈良地区という名称で、代表的な谷戸一覧の表に加えてください。	ご意見については、「重点アピール3・谷戸環境の保全と活用」など今後の取組の中で参考とさせていただきます。
地域の谷戸を活用した学校の環境教育を奨励し、積極的に支援する、とはっきりうたうべき。	本計画の「農業施策の拡充」や「他分野との横断的連携による谷戸環境の積極的活用」に掲げている通り、様々な主体と連携し、谷戸環境の保全と活用を進めていきます。
市街化区域内の開発の規制強化や市街化調整区域の開発の禁止など、緑を守るための仕組み作りを進めてほしい (5件)	ご意見については、「重点アピール6・しくみづくり」等、今後の取組の中で参考とさせていただきます。

貴重な自然を残すための

自然公園化

……横浜市との対話はじまる！……

◇都市計画道路奈良1号線の廃止確定

奈良川源流域を通る都市計画道路奈良1号線の計画廃止の動きを見て、当会では、奈良川源流域が都市部に残された貴重な自然であることから、奈良1号線のために横浜市が取得していた市有地を自然公園化する提案を行ってきました。前号（カワセミだより12号）で報告したように、2009年夏に公園化の案を返信はがき付きで近隣の2800戸に全戸配布したところ、226通の回答があり、その大部分は自然公園化を望むものでした。そこで、いただいた意見を付記した提案書を道路局と青葉区に提出するとともに、横浜市長にも陳情書として出しました。

2009年12月25日には、奈良1号線の計画廃止が告示され、それから1年半経過したので、役所における自然公園化提案の検討状況を説明していただく機会を2011年6月26日に持ちました。来られたのは、道路局企画課都市計画道路担当係から1名と青葉区区政推進課企画調整課から2名です。当会からは12名が参加しました。「公園化の件なので、担当部署である環境創造局も出席して欲しかった」との意見に対しては、「環境創造局にも声をかけたが、予算がなくて何もできないとの理由で来なかった」とのことでありました。

◇当会からの提案

当会からは、

- ・奈良1号線の廃止理由は、計画地が緑の7大拠点にあることなどで、自然公園化の提案はそれと方向が合致しているので、現在、予算がなくても環境創造局としてのビジョンは示せるのではないかと。
- ・奈良町はらっぱ広場等には、準絶滅危惧種や東京都の保護対象種など、貴重な植物がたくさんある。ここでは、危険な球技をやっていることもあり、植物も痛めつけられている。生物多様性行動計画を策定した横浜市は、この貴重な自然環境に対して、守り、親しみ、

観察する教育の場として、もっと積極的に関わるべきではないか。

- ・自然公園化の問題は、子どもたちから高齢者まで、周辺住民全体の住環境に関わる大きな問題なので、関係者が集まって話し合う場が必要なのではないか。などの意見を出しました。

◇横浜市からの説明

そこで受けた説明の要旨は次のとおりです。

- ・予算が厳しいので新規事業はほとんどできない。
- ・市有地ではあるが、公園化するためには、環境創造局が土地代金を負担する必要がある、その際には環境創造局としての予算の優先順位も考えなければならない。



- ・お金をかけない自然公園化といっても、水路の改造などにはかなりの費用と時間がかかる。

- ・費用の件は、さらに検討するとして、まずは、公園化の方向性を打ち出せないかということについては、一部の人たちだけでなく、住民の総意としての意思表示も必要である（住民の総意としては、公園化を望む周辺住民のアンケート調査結果があります）。

◇観察・調査と環境教育への支援

自然公園化提案は、生物多様性保全の観点から環境創造局が「ヨコハマbプラン」で掲げた施策と基本的に目指す方向が合致しています。これを実現するには、市民と行政が知恵を出し合うことが必要なので、予算の厳しさはあるでしょうが、引き続き環境創造局および地域の諸機関・諸団体に働きかけを続けていきます。

実践活動としては、住民の方々が奈良川源流域の自然の豊かさを実感し、これが次の世代に引き継ぐべき貴重な自然であることを理解していただくための活動を続けていきます。

とくに、環境省モニタリングサイト1000による調査・観察活動を継続するとともに、近隣の小学校などと連携して、生物多様性の重要性を子供たちに伝えるなどの環境教育の支援を行っていきます。

多摩丘陵とヒヨドリの関係は？

仲俣 申喜男 (ナカマタ ノブキオ)

このあたりで今、最も数多くて威張っているのはヒヨドリではないでしょうか。群れで行動していますし、気性も結構荒く、水呑場にツグミなどの先客がいっても追い払って自分たちで占領してしまいます。

もともとヒヨドリは南方系の、日本本土・韓国・南西諸島などの照葉樹林に棲息する「山の鳥」で、街にはいなかったのです。それが今から41年前の1970年、多摩地域で繁殖が初めて確認されたのを皮切りに、ま



わがもの顔のヒヨドリ

たたく間に里から街へ、多摩全域から都内全域へと生息域を拡げ、今では私たちの一番身近な鳥となりました。

多摩川の右岸から南へひろがる**広大な多摩丘陵**、私たちもその一角に住んでいるわけですが、昔の地図を見ると、標高100 mから180mほどの丘陵帯に尾根や丘、



コゲラは生き延びている

谷戸や川などが複雑に入り組み、ところどころに農家や小さな集落が点在する、という地形でした。

山は大部分が雑木林で、丘やゆるやかな斜面は荒地・牧草地・畑・果樹園などで、谷戸の低地は湿地や田んぼです。

国土地理院の地形図を昔から発行順に並べて眺めると、この丘陵地帯の激しい変遷ぶりがよくわかります。

多摩ニュータウンの開発が始まったのが1965年、入



一昔前の奈良町（奈良の丘小学校にあるジオラマより）

居開始が1971年でした。凄まじい勢いで丘陵が開発されて大規模な住宅地になっていき、現在では昔ながらの丘陵は殆ど消滅してしまいました。この推移の有様はまさにヒヨドリの生息域拡大と軌を一にしているように思われます。

僅かに昔の面影を留めているのが多摩ニュータウンと鶴見川の間に東西につながる**小野路**、**小山田**（鶴見川の源流域）などの一帯で、今も残る善次ヶ谷、田中谷戸、狐久保などの地名がこの多摩丘陵の地形の特徴をよく表しています。田や畑は多くないので、農家の主な仕事は果樹・植木の苗・畜産・炭焼などで、山菜や茸も大切な収入源です。ハイキングにはよいところですが、貴重な歴史保全地域です。たとえ道端に生えている花や茸でもうっかり摘むと叱られます。心して歩きたいものです。

鶴見川の右岸から南へ岡上・三輪・こどもの国・成瀬台から恩田川へと広がる丘陵も、殆ど大規模な団地やスタジオ建設などで失われてしまいました。

私たちの**奈良川源流域**は其中で僅かに残された貴重な谷戸です。昔の地図を見ると、ここに「**西の谷**」という地名が記されています。奥は「**土橋**」、本山池から上へ分かれる谷戸は「**蛇谷**」と呼ばれていました。ことり橋（前はどんと橋というすてきな名前でした！）から北西へ上がる「**竈谷**（カマドヤ）」と呼ばれていた谷戸は学園台団地として開発され（私がここに移り住んだ当初はまだこの「竈谷」が住所名でした。）、奈良北団地入口から北へのびる谷戸はTBSスタジオへと大規模に開発され、すっかり跡形もなくなってしまいました。

この奈良川源流域が残ったのは、この谷戸の北側が玉川学園のキャンパスになっていたのが大きいと思います。しかしこのキャンパス内も少しずつ開発が進められて現在のグランドや中学部の建設が始まった時には「蛇谷」にいた蛇が大量移動し、私の家の庭にも蝮（マムシ）がきて植木屋さんが「これは金になる」と捕まえて持っていきました。鼬（イタチ）も移ってきま

したが今は姿を見ません。絶滅が心配されます。狸についても同様です。

ご存じのように、こうした谷戸の、流れと湿地やたんぼがあり、畑・丘・里山・雑木林・藪・農家がある



エゴの実をつつくヤマガラ

という地形は**生物多様性**の豊かなところです。開発される前の「どんと橋」あたりの奈良川では、泳いだり鰻（ウナギ）を捕えたりし、蛍や糸蜻蛉（イトトンボ）も飛びかっていたそうです。

今では川は三面コンクリートの殆ど暗渠のような姿になってしまい、蛇谷は埋められ流れの止まった本山池には青藻が広がってしまいました。東の田んぼが埋められて施設が建ち、北の竹林も崩されて老人ホームが建ちました。

周りの団地も谷戸のギリギリ上まで山を削って宅地を造成したため、奥の尾根に接するところは急斜面の崖になって残りました。そこは薄（ススキ）や灌木が生えて鳥たちの住処になっていましたが、所有者の開発業者が手入れをしないため、どんどん篠竹の高い藪になってしまうので、やむなく下の家の住民たちが毎年草刈りをしています。ある春、私も家の裏の急斜面の薄を刈り進めているとホオジロの巣が現れ、驚いた巣立ち間際の雛たちがバラバラと飛び落ちてしまいました。雛たちを拾って巣に戻したのですが、一旦巣から落ちた雛は戻してもまた離れてしまいます。あとは親鳥が面倒を見るので、これからの季節、落ちた雛を見ることがあっても手を出さずにそのままにしておきましょう。

家などとても建ちそうもなかったこうした急斜面も今や転売され、市が建築を許可し、どんどん家が建てられています。岡上の尾根の西側の深い急斜面は下から上までびっしり家が建ち並んでいて、そこに「崩壊危険地域」などという看板を立てているのは漫画のような光景です。

ホオジロは薄などの草地や荒れ地などに棲み営巣するので、最近のホオジロの減少は棲息地のこうした変遷と無関係ではないと思います。

ヒヨドリの方は森を失い、「街の鳥」として生きようと決心したのかもしれません。住宅地には結構樹木があります。——「森を伐り家建て細い庭木植え」——

花の蜜を吸い、花びらを喰べ、飛んでいるセミを捕らえて雛に与えるなど繁殖期には虫もよく喰べます。漿果（シヨウカ）は喰べられる限り何でも喰べます。——「**ヒヨドリのクロガネモチを食べ尽くす遅れしものは寒空仰ぐ**」（高槻市奥本健一さん）—— 庭のナンテン、センリョウ、マンリョウまでも喰べ尽くされてしまいます。キンカン、ビワ、柿など大きい実は突いて喰べます（メジロも同じ。オナガはキンカンを丸呑みします）。漿果を喰べ尽くすと畠の野菜をむしって喰べます。農家や家庭菜園の主にはまったく憎らしい鳥ですが、遅しく街で生き抜く彼らの生命力には感嘆させられます。騒がしい鳴き声も、よく聴くとさまざまな声を使い分けて仲間と鳴き交わしているのがわかり、かなり高度なコミュニケーション能力があると思われます。

* * *

山、丘陵、谷戸、田や畑などをどんどん潰し、大規模にゴルフ場や工業地帯、住宅地に変えてしまった今日の日本の国土の変遷は、そこに棲んでいた多くの動物たちや鳥たちの暮らし方に大きな変化を強いました。



アオゲラの餌も少なくなっただろう

少なからぬ種が絶滅の危機に瀕する一方で、ヒヨドリのように新たな環境で遅しく生き始めた種もあるのです。

人間のいるところで生活するスズメも数千年前までは森の鳥でした（ヨーロッパでは今でも森の鳥です。英語では tree sparrow）。農耕が始まって以来、人間の住む処で棲むように生き方を変えてきたのです。そのスズメも今、数が減ってきています。人の住み方、住宅の変わり方が原因の一つと考えられています。

自然とともに暮らしてきた日本人、その「自然とともに暮らす」生き方とはどういうことだったのか、今その意味をより深く考え直してみることが大切なのだと思います。



プロフィール

仲俣先生は、野鳥観察会の常連の講師としてお馴染みですが、本職は巨匠オリビア・メシアンに師事された現代音楽作曲家です。鳥をモチーフにした作品多数。（鎮目）

生物は環境で変異する

松野 裕二

植物には不思議な力があると思う。僕は植物に興味を持つまではどちらかと言うとマイナス思考の面があったが、植物の観察を通じて前向きに考えられるようになった。また、植物の見え方もだいぶ変わった。

植物調査に参加するまでは、雑草は雑草というくくりでしか見ることができなかったが、ヘクソカズラやハキダメギクなど、雑草一つ一つの名前や名前の由来などを知って、世界観が変わったような気がする。今では、ただ散歩するにしても、足元に生えている小さな花が気になってしまう。わからない花に出会うと少し悔しいが、図鑑を使って同定することが楽しみでもある。

植物調査で一番驚いたのは、原っぱにノカンゾウがたくさん生えていたことである。ユリの花はお花屋さ



これは、何という植物かな？

んにあるものや植えられたものしか見たことがなかったので、美しい花が自生しているのに感動した。昨年の8月からずっと、この花が携帯の待ち受け画面になっている。そのせいか、ユリ科の花が個人的に好きである。植物調査では、ノカンゾウのほかに、ヤブカンゾウ、ツルボ、ヤマホトトギス、タイワンホトトギスなどを見ることができて幸せだった。

植物調査をするコースでは、田んぼ、原っぱ、山、日なた、日陰など、様々な環境があり、見ることができる植物の種類が多いので、このような環境は大切にしていきたい。生物は環境で変異する、というようなことが高校の生物の教科書に書いてあったが、僕自身もこのとてもよい環境で変異していきたい。

プロフィール.....

松野さんは、「モニタリングサイト1000」植物相調査に、毎月参加されているボランティアの大学生です。研究熱心で、植物に対する知識や見識が瞬く間に豊富になり、どんどん「変異」していくのには驚かされます。奈良川源流域の植物を誰よりも愛し、一番良く知っている若者のひとりです。(鎮目)

「第5回全国タナゴサミット in 菰野 (こもの)」に行って

山口 博和

去る2月26日(土)に、三重県三重郡菰野町で行われた全国タナゴサミットへ行ってきた。今回で五回を重ねるサミットでは、「タナゴの棲むふるさとを未来に」をテーマに、東北・関東・東海・近畿・中国・四国の各地方から、タナゴの保護活動団体や研究機関・研究会の方々が集まり、それぞれの地域に棲んでいるタナゴの現状と保護活動の報告があったが、タナゴを取り巻く環境の厳しさを再確認することになった。

関東地方では、守る会でもゼニタナゴの保護活動で協力をいただいている、神奈川県水産技術センター内水面試験場の勝呂尚之氏から、神奈川県産のミヤコタナゴの保護活動についての報告があったが、ゼニタナゴについての報告はなかった。ゼニタナゴについての報告も伺いたいところである。

☆☆☆

各地方から次のような報告があった。

東北地方(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の進藤健太郎氏)：伊豆沼・内沼に無数にいたゼニタナゴがブラックバスの侵入により、瞬く間に姿を消した。

東海地方(東海タナゴ研究会の北島淳也氏)：田光地区に「楠根ため」という「農林省ため池100選」に選ばれた溜池があり、そこにはアブラボテや天然記念物のシデコブシなどの希少生物が生息し、それを地域の方々がひとつになり守っている。

近畿地方(ニッポンバラタナゴ高安研究会の加納義彦氏)：溜池にいるブラックバスを駆除したら、天敵のなくなったアメリカザリガニが大量発生し、タナゴの産卵母貝となるドブガイが全て食べられてしまった。



「農林省ため池100選」に選ばれた「楠根ため」

中国地方（岡山淡水魚研究会の青雄一氏）：スイゲンゼニタナゴとアユモドキが、密漁による採集圧や水路の三面コンクリート護岸により激減してしまった。

他には、近畿地方のぼてじゃこトラストの武田繁氏や淀川水系イタセンパラ研究会の小川力也氏や四国地方の香川淡水魚研究会の橋本佳樹氏などから報告があった。

各報告について、地域 みんなが取り組み、保護活動を行うことが、いかに大切で困難なのかが分かった。そして、地域住民に積極的に保護活動に参加してもらうには、地域に愛着を持ってもらうということである。それには、地域に誇りを持てるものや自慢の出来るものがあれば、地域に愛着を持ってもらいやすい。地域に愛着を持たないと継続的な保護活動を行うことは困難である。

そのためには、子供の頃から活動に参加してもらうことが大切であり、子供とおじいさんとの一緒に活動

こそが、地域の保護活動を永続的に継続させることに繋がっていく。

これは、我が守る会にも言えることで、これからも、近隣の小学校などと連携をとり、地域に愛着を持つ「地域愛」を育んでいかなければならないと思う。



楠根ために生息するドブガイ



近隣小学校の 里山観察会に協力

近くの小学校では、源流域の自然にふれあうための里山観察会をしばしば行っており、当会ではその案内役として協力しています。

2010年1月21日には、奈良小学校3年生40人あまりの里山観察会があり、主に鳥などを観察しました。幸運にも、大型の鷹類であるノスリを見ることができました。

2011年6月11日と9月24日には、つつじが丘小学校の課外授業として、2年生から6年生までの20数人が、初夏と秋で里山がどのように変化するかを体験しました。時間がいくらあっても足りないほど夢中になっていました。

2011年10月4日には、奈良の丘小学校の4年生約120人が奈良町はらっぱ広場を観察し、生き物の豊富さに驚きました。

子供たちにとって、かけがえのないとても良い体験になったことと思います。

希少な植物が自生する 奈良町はらっぱ広場

奈良町はらっぱ広場には、準絶滅危惧種のミゾコウジュや、「東京都の保護上重要な野生生物種」であるマツカサススキなどが自生しています。また、ノカンゾウの大きな群落や、ミソハギ、ミゾカクシなどの美しい花が四季折々咲き、豊かな自然を形成しています。

珍しいノカンゾウの群落



準絶滅危惧種のミゾコウジュ

トピック 2010年6月。

横浜市から当会の環境保護活動に対し 「環境活動賞実践賞」が授与されました。



林文子横浜市長から賞状を授与され、挨拶をする渡邊会長。

「環境活動交流セッション」で当会の活動内容を説明

林市長からは、「今年は名古屋で生物多様性条約締結国会議（COP10）があるが、環境問題は生物多様性も含め、みんな繋がっており、市民や企業のこのような活動がとても重要である」旨のお話がありました。「生物多様性」保全はモニタリングサイト1000活動をはじめとする当会の活動の主要テーマですので、首長の口から「生物多様性」の言葉が出たのはとても新鮮で、一気に親近感が持てました。

今回は、21の市民団体、企業、学校が受賞しました。

横浜市環境保全活動助成金の交付決定

環境創造局募集の、地域での環境保全活動の充実と環境保全型社会の創造を図ることを目的とした助成金（8万円）が交付されました。今年度の重点募集テーマは「生物多様性と子どもたち」で、これまでの会の活動経験が生かせるものでした。助成金は、地域のこどもに役立つよう、知恵と労力を出しあい、有効に活用したいと思います。

★誰でも参加できる定期的活動

鳥類センサス（毎週土曜朝7時から土橋谷戸で、鳥の種類と数を記録）、花壇の手入れ（連絡したうえで、土曜日から日曜日に実施）。飛び入り参加を歓迎します。都合のよいときにご参加ください。

入会のご案内

○一緒に谷戸での草花づくりや里山公園の手入れ、あるいは鳥の観察などをしませんか。会員の方には、会報「カワセミだより」をお届けし、また、随時、定例会、行事のご案内をいたします。

○会費：年間2000円（家族は無料）/入会受付：事務局、または緑山ハーブガーデン「ナチュラパス」

○インターネット上の当会のホームページでは、活動の内容と、会報がご覧になれます。（<http://nara.yato.jp>）

○連絡・お問合せ：「奈良川源流域を守る会」事務局
電話 045-962-9321（渡辺）、e-mail: nara@yato.jp

活動歴

私たちは、奈良川源流域の里山環境が保全されることを願い、そのすばらしさを多くの人々に実感していただくために、日本野鳥の会をはじめとする自然保護団体の方々や、大学の先生方をお招きし、様々なイベントを開催してきました。その一端をご紹介します。

1996年度 発会式/花見/春の探鳥会/座間谷戸山見学会/植物観察会/初夏の探鳥会/開成町ホタルの里見学会/田植え/源流域の草刈り・川掃除/昆虫観察会/ホタルの会/虫の声を聴く会/稲刈り・脱穀・粉すり/餅つき大会

1997年度 冬の探鳥会/植物観察と花見の会/田おこし/谷戸・里山の保全について考える会/畔つけと田植え/源流域の草刈り・川掃除/ホタルの夕べ/昆虫観察会/虫の声を聴く会/稲刈り・脱穀・粉すり/収穫祭

★絶滅危惧種ゼニタナゴの生息地復元で、WWF Japanの1998年度自然保護こと業助成決定（以後3年間助成金を受け、神奈川県水産総合研究所、玉川大学との共同事業として実施）

1998年度 冬の探鳥会/植物観察と花見の会/昆虫観察会/春の探鳥会/開成町ホタル観察会/田植え/田の草取り/ホタルの夕べ/昆虫観察会/ゼニタナゴの池掘り/稲刈り・脱穀/草笛の会/収穫祭

1999年度 探鳥会/植物観察と花見の会/昆虫観察会/ホタルの夕べ/虫の声を聴く会/収穫祭/竹炭焼きの準備

2000年度 竹の炭焼き/炭出し/探鳥会/自然観察と花見の会/草笛の会/ホタルの夕べ/虫の声を聴く会/収穫祭

2001年度 節分 半夏会/探鳥会/昆虫観察会/虫の声を聴く会/収穫祭

2002年度 冬の探鳥会/花見/初夏の探鳥会/昆虫観察会/虫の声を聴く会/里山型公園の形態や樹種選定について緑政局と協議/収穫祭

2003年度 探鳥会/花見/植物観察会/昆虫観察会/里山まつり/里山公園の手入れ（草刈り、クズ除去等）/神奈川県教育委員会制作の学校教育放送番組「わくわくチャレンジ - 自然たいけんにでかけよう」で紹介される（TVKで放映）/探鳥会

2004年度 草笛と野遊びの会/昆虫観察会/里山まつり/里山公園の手入れ（草刈り、クズ除去等）/学校教育放送番組再放映/本山池の調査/探鳥会

2005年度 探鳥会/花見/昆虫調査/昆虫観察会/里山まつり/里山公園の手入れ/環境教育シンポジウム「奈良池の保全と環境教育」参加・講演/本山池北側のゼニタナゴ池作りに協力/奈良小学校5年生が「NHK放送体験クラブ」で作成した番組で奈良川源流域が紹介される

2006年度 探鳥会/花見/昆虫調査/昆虫観察会/里山まつり/里山公園手入れ

2007年度 花見・里山吟行/探鳥会/昆虫調査/昆虫観察会/里山まつり/里山公園手入れ/鳥類センサス

2008年度 花見・里山吟行/探鳥会/昆虫調査/昆虫観察会/土橋谷戸で野菜作り開始/環境省の「モニタリングサイト1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」で奈良川源流域が調査地に選定され、当会が調査を開始/里山公園手入れ（樹木への名札付け、古い支柱ははずし、他）

2009年度 花見・里山吟行/探鳥会/昆虫調査/昆虫観察会/里山まつり/奈良小学校の「ふれあい祭り」にパネル展示/都市計画道路奈良1号線計画地の自然公園化を提案する活動/里山公園手入れ（竹間引き、樹木への名札付け、他）

2010年度 花見/探鳥会（2010年国際生物多様性年CBD/COP10記念「全国一斉自然かんさつ会」参加企画）/横浜環境活動「実践賞」受賞/日本自然保護協会市民調査全国大会でパネル発表/昆虫調査/昆虫観察会/里山まつり/奈良小学校の「ふれあい祭り」にパネル展示/野生動物保全フォーラム（神奈川県自然保護協会）で口頭発表/つづじヶ丘小学校で「奈良川源流域の自然」説明/青葉区町作りフォーラムに参加/全国タナゴサミットに会員参加/「ヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）素案」に対するパブリックコメント提出/里山公園手入れ（竹間引き、樹木への名札付け、他）

★編集後記★

今年は東日本大震災と原発事故で、自然環境は手ひどい打撃をうけました。この回復は容易なことではなく、長い年月がかかると思われます。奈良川源流域には、まだ幸いなことに、美しい自然が残っています。小さな花壇の世話でもなかなか手間のかかることからみて、このような自然環境を保全してこられた方々の苦勞がしのべれます。微力ながら、それに役立つことをやっていきたいと思っています。<渡辺 坦>